

特集 企業内診断士のパラレルキャリア

第1章 パラレルキャリア診断士を 訪ねて

——複業で広がる企業内診断士の可能性



「企業内診断士のパラレルキャリア」執筆チーム

近年、「パラレルキャリア」という言葉を耳にする機会が増えた。中小企業診断士の世界においても、複業を通じて多彩なキャリアを積む企業内診断士が増えている。本特集では、さまざまな形でパラレルキャリアを実現する企業内診断士を取り上げ、彼らがどのような悩みや思いを持ち、いかにしてキャリアを築いてきたのかに迫った。

1. パラレルキャリアとは

そもそも「パラレルキャリア」とは、著名な経営学者であるピーター・ドラッカーが提唱した考え方である。ドラッカーは、著書『明日を支配するもの』の中で、「人間の寿命が組織の寿命より長くなった現代において、個人が1つの組織に依存することなく、第二のキャリアを主体的に積んでいくことが重要である」と説いた。

この考え方を踏まえ、本特集では、関連する言葉を以下のように定義し、使用している。

(1) 複業

副収入を主目的とせず、自身の夢の実現、社会貢献、スキルアップなどを目的として複数の活動・業務を並行して行うこと。

(2) 副業

主に副収入を目的として、主たる業務（本業）のほかに働くこと。「社会・企業における

制度としての副業」の意味でも使用する。

(3) パラレルキャリア

複業によって築いた複線的なキャリア。「複業」がある一時点の働き方を指すのに対し、時間軸（人生における働き方）を含んだ概念である。

2. 複業で広がる企業内診断士の可能性

本特集では、チームとして力を結集することで企業内診断士の可能性を広げる松本崇さん（第2章）、パラレルキャリアとしての活動時間をSDGsに注ぐ太田宜志さん（第3章）、多様な支援実績を積み重ねつつ女性・子どもの支援も目指す高田直美さん（第4章）、人と人を結ぶ取組みで銀行員の新たな複業の在り方を示す林大祐さん（第5章）、企業内診断士として長く活躍するための示唆に富むお話を伺った吉井洋さん（第6章）を取り上げた。

コロナ禍におけるテレワークの広まりによって、診断士活動を行ううえでの時間的、距離的な制約は少なくなりつつある。また、政府の後押しや社会気運の変化により、副業・兼業を解禁する企業も増えてきた。企業内診断士にとって、複業に取り組む環境は整いつつあるのだ。

本特集が、多くの企業内診断士にとって、これからのキャリアを考えるうえでの参考になれば幸いである。